

2024年度 事業所における自己評価総括表（児童発達支援・放課後等デイサービス・保育所等訪問事業）

公表日：2025年3月31日

よこはま発達サポートルーム

○事業所名	よこはま発達サポートルーム			
○保護者評価実施期間	2025年3月6日		～	2025年3月16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28	(回答者数)	19
○従業者評価実施期間	2025年3月6日		～	2025年3月16日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数)	4
○訪問先施設評価実施期間	2025年3月12日		～	2025年3月23日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	5	(回答数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月31日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	プログラムの個性	利用開始時に心理職員等が中心となり、複数名で評価のセッションを実施しています。とは言ってもお子様たちは日々成長していきますし、Plan - Do - Check - Actionと毎回のセッションごとに改正する部分が出てきますので、日常に取り組みが変化していきます。ですので、日々の療育活動においても一つ一つの課題、一つ一つの場面にに対してアセスメント記録を取り、活動終了後に検証、次への修正・改善点などを明らかにしています。課題、取り組みの一つ一つに設定している狙いや理由がありますし、必要なものは手作りであっても作成して、お子様を型にはめるのではなく、そのお子様に合う、そして暮らしに必要な課題設定を行なっています。	個々に合った療育プログラムを提供するためには、職員のモチベーションと高い専門性が不可欠です。それを担保できるよう、職員のスキルアップを図っていきたいと思います。
2	プログラム・職員の専門性とそのバックアップ体制	心理士、言語聴覚士、作業療法士等の専門資格を持った職員が多数所属しております。また系列のグループにも医師、心理士、言語聴覚士等の専門職員がおり、常に事業所への訪問であったり、相談・バックアップできる体制にあります。月に1回、グループ内の全臨床職員が参加してのケース検討や、月1回の研修の機会を設けています。 さらに月に1回、外部からのコンサルタントに入っていただき助言を得ています。そのほかグループ外部で国内・海外の研修にもグループからの補助を活用して参加できるようにし、常に国際レベルでのup to dateをはかれるよう心がけています。	まずはすべての職員が発達支援のジェネラリストとなれるよう取り組んでいきたいと思います。またその上で、自身の専門領域はもとより、他の領域に関しても研鑽を積めるよう機会を設定していきたいと思います。 他の良い取り組みをしている機関に研修に行くなど、他の機関との交流もさらに深め、提供できるサービスの質の向上に努めたいと思っています。
3	職員間での連携・情報共有	事業所内では毎日、終了後に情報共有の時間を設けております。また、よこはま発達グループ内の他のサービスを利用されている方も多くありますが、主治医等とも、日常的に情報共有をはかれるように取り組んでいます。	現時点でもその日のうちに必要な関係者に情報が共有されています。まずはそれがより確実にできるよう体制を維持していきたいと思います。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ご家庭との情報共有	お子様たちは日々成長していきますし、Plan - Do - Check - Actionと毎回のセッションごとに改正する部分が出てきますので、日常に取り組みが変化していきます。ですので、日々の療育活動においても一つ一つの課題、一つ一つの場面にに対してアセスメント記録を取り、活動終了後に検証、次への修正・改善点などを明らかにしています。これまで、保護者担当のスタッフから説明することが多かったかと思いますが、口頭での説明が多かったようにも思います。	職員の方では、毎回、一つ一つの課題、一つ一つの場面を評価し、次の工夫を計画し、書面に残しています。支援計画のみならず、日々の取り組みにおける工夫も含め、よりご覧いただき、共有できるような形を検討したいと思います。
2	学校等への移行支援	保育所訪問や保護者を通して、幼稚園や保育園等での取り組みの情報を得たり、サポートルームでの支援内容を幼稚園・保育園等にお伝えしています。療育内容も家庭、幼稚園・保育園等への汎化を目指したもので、ソーシャルインクルージョンを目指した取り組みです。療育活動で見つけたアイディアを家庭や園、そのほか地域活動にご活用いただけたらと思っています。これまで就学するお子様の数は限られていました。そのため、その都度ご相談しながら移行を行なっていました。	現在徐々に進学するお子様がでてきている状態です。学校への訪問のご要望なども頂いておりますので、今後、小学校等への移行をサポートし、より円滑に学校生活をスタートできるよう、そしてその後もフォローアップできるような体制作りをしていきたいと思っています。
3	職員の配置人数	お子様の同時利用の最大人数4名に対し、職員を3名に加え、保護者対応の職員を配置しています。ただ職員の体調不良等の緊急時等では、親子での通所を基本としていますので、十分に手が回らない時があります。	配置の基準となる職員の人数はいても、親子通所という仕組み上、職員の体調不良等の臨時の場合に、保護者様への支援の手が十分に回らない時があるため、引き続き職員の質を維持しつつ、拡充に取り組みたいと思います。

※事前の保護者、職員、および訪問先への調査・解析や検討は各事業ごとに実施しました。詳細は別途掲載しています。その結果得られた、事業所の強み・弱みやその要因・対策といった総括は3事業で共通していましたので本書類に合わせて掲載しています。